

## 第6回協議会・区民環境委員会・パブコメ・第7回専門部会を受けての論点・課題

## 1 第6回ボランティア活動推進協議会

第6回協議会の委員意見を受けた素案反映点は以下のとおりである。

	委員意見概要	素案への反映内容	確認点等
1	ボラセンと災害ボラセンの因果関係が見えにくいため、ボラセンが災害ボラセンになることを明記したほうがよい。	P5「4これまでの成果と課題」(2)課題(下から6行目) 「なお、板橋区地域防災計画〔資料編：24頁参照〕に基づき、ボラセンは、区と社協と協働し、災害時のボランティア活動の拠点として「いたばし災害ボランティアセンター(以下、「災害ボラセン」という。)」を設置し、運営します。」 に表記を変更	
2	地域人材を支える人材育成や活性化についての方策を切り出しても良いのではないかと	P10「(1)方策1：システム・事業等の整備」 <表5：手法と事業展開> イ 既存事業の整備 <u>③地域活動を支える人材育成</u> に下線追記  P11 1行目 「活動を活性化するには、活動者の増加も重要であり、「イ既存事業の整備」 <u>②地域活動を支える人材育成</u> 及び <u>③各主体との連携・協働の強化</u> について発展させる必要があります。 例えば、 <u>②地域活動を支える人材育成</u> については、次のような視点も重要になります。 ・SDGsの視点を踏まえ、未来を担う子どもたちが活動に参加できる土壌の整備 ・地域の要望・課題と活動者のギャップを埋め、地域活動の継続・発展を促進する 等 また、 <u>③各主体との連携・強化</u> のための方向性は以下のような事が考えられます。」 という表記変更	
3	地域での人材不足を感じている	No.2と同じ反映	
4	未来の子どもたちへの人材育成という視点も大事になる	No.2と同じ反映	

2 区民環境委員会 (9/25)

区民環境委員会の委員意見の概要及び地域振興課の回答について、一部抜粋したものは以下のとおりである。

	委員意見概要	地域振興課の回答	確認点等
1	行政計画として策定しないのか (表紙)	ボラセンの運営自体が四者協働によるものであり、行政のものではないため、ビジョンについても協議会で「四者」による策定を行っている。	
2	新ビジョンと基本構想で、区の関わり方がかわるのか (P3)	区の役割は、「活動場所の提供や規定の整備、会議等の開催など環境整備に努める。」としており、このあり方は従前から変わっていない。	
3	災害ボラセンの位置づけの記載はあるのか 災害ボラセンの地域への周知・連携を行ってほしい (P4)	地域防災計画の見直しを踏まえた上で、運営に関するルールを策定していく。 地域への周知についても、改訂される地域防災計画等とともに説明し、より理解を得られるよう対応していきたい。	
4	人材不足をどう解消していくのか (P5)	P11 にあるように地域や学校との関わり、特に学校は未来を担う子の情報教育の場を担っているため力を入れていきたい。また対応する人材の不足はシステム導入により解決していきたい。 ボラセンを直接担う人材については、職員を増やすのではなく、サポートできる人材を増やすことを考えている。	
5	運営方針が、ビジョンの中にあることに違和感がある。ミッション・ビジョン・バリューがもう少しわかりやすい方がいいのではないか (P6-7)	区の行政計画では、一般的には運営方針はビジョンとして入っていないことが多いが、今回は「ボランティア活動推進協議会」名でのビジョンになり、委員の皆様と作ったものであるため、区の行政計画と異なる形式の部分がある。	➡ 「運営方針」を「組織戦略」に変更
6	システム導入により、どのマッチングに力を入れたいのか システムの目途はどうなっているのか (P10)	まずは、「する人」・「される人」のマッチングをいかにスムーズに行っていくかが重要だと考えており、この点から効率化を図りたい、その他の点も順次すすめていきたい。 システム化については現在検討中であり、令和6年から情報の一元化・データベースを整えた上で、人を介さずマッチングできるしくみを検討していきたい。	
7	部活動の地域移行についてのハブになり得るのではないか (P11)	ボラセンは地域の人が集まってくる場所である。記述できるかわからないが、そのような思いを組み込んで策定していく。	
8	学校長との連携は今後どのような展開を考えていくのか (P12)	部活動の地域移行等もある。学校教育の中でボランティア経験をどう増やしていくのか、そのようなことについて連携を図っていききたい。	
9	分野を分けての協議も必要になるのでは (P12)	役員会・運営委員会で個別具体的に検討していく。	

### 3 パブリックコメント

<パブリックコメントの概要>

◎募集期間：令和 5 年 9 月 25 日（月）～10 月 10 日（火）

◎件数 22 件(パブリックコメント回答対象 12 件、回答対象外 10 件（現ボラセン運営に関するご意見等）)

◎9 名（内 1 名が持参及びメールにて意見提出）

（直接持参 3 名、ファクシミリ 2 名、電子メール 1 名、Web 提出 4 名）

パブリックコメントによる意見の概要及び区の考え方（案）は以下のとおりである。

なお、ビジョン本編 P23「1-7 パブリックコメント結果」も併せて確認いただきたい。

	項目	意見概要	区の考え方	確認点等
<b>第1章 ビジョン作成にあたって</b>				
1	1 策定の背景と目的	<b>P1「1 策定の背景と目的」にある「今後のボラセンが担うべき役割」、これこそが大きなテーマでもっとこれを議論すべき。その為に、区役所、社協、区民、団体がどのような行動をとるのが最適なのかを導くべき。</b>	板橋区ボランティア活動推進協議会において、「今後のボラセンの担うべき役割」を議論・検討し、可視化したものを「ビジョン（将来像・基本理念・運営方針）」という形で P7 に記載しています。 また、区民・地域団体・法人・区に期待する役割は P8 で明記していますが、さらに主体を細分化して各々の行動・役割を定めていくかどうかは、引き続き、いたばし総合ボランティアセンター（以下「ボラセン」という。）の役員会・運営委員会等で検討していきます。	
<b>第2章 ビジョンの基本的な考え方</b>				
2	2 将来像・基本理念・運営方針	<b>板橋区は約 20 年間全国的にも特殊な「4 者協働」というボラセン運営形態をとっていて、この間の検証と評価を区外の有識者を交え議論し、そのうえで運営が最適となるようにビジョンを策定すべきだったと考える。ボラセンと各 NPO や各機関は、そもそも役割が違う。「4 者協働」という言葉であいまいにせず、役割をもっと言語化してわかりやすくすべき。</b>	ご指摘のとおり「区民・NPO 法人・社会福祉協議会・板橋区」の四者による協働設置によるボラセンの運営は全国的にも珍しい運営形態になります。 本ビジョンは、板橋区ボランティア活動推進協議会委員として学識経験者 2 名も加わり、これまでの経緯もご理解いただいたうえで、作成しています。 また、他自治体のボラセン運営もそれぞれ課題があり、多くの形態や対応が存在していると認識しています。（「4 者協働」の各主体の役割については、上記 No. 1 の「区の考え方」のとおり。） 今後、ビジョンに基づき 2030 年までの間に、協働設置のあり方や各機関等の役割について、様々な意見等を踏まえながらボラセンを発展させていきます。	

	項目	意見概要	区の考え方	確認点等
<b>第3章 今後の方向性</b>				
3	1 プラットフォームの構築	<p>P9「第3章今後の方向性 1 プラットフォームの構築」について、「プラットフォーム」はカタカナ語でわかりにくいいため、もっとわかりやすい言葉で説明すべき。そもそも、ボラセンの大きな役割は調整機能（コーディネーション）で、プラットフォームは「場所（ネット空間も含む）」。もっとイメージしやすい表現をすべきだ。プラットフォームといえば鉄道駅の乗降する場が一例。様々な方向に行きかう列車と人々が下りたり待ったり「行すべき場所」。確かにボラセンとはその鉄道駅のプラットフォームのような役割も必要だが、それは具体的にはどのような事例なのか。具体例を多く出してわかりやすくすべき。</p>	<p>プラットフォームの機能や運用事例は、P26の資料編「3-1いたばし総合ボランティアセンターにおけるプラットフォーム」において説明しており、記載のような機能を板橋区でも実現させていくことを目指していきます。ご指摘のとおり、プラットフォームという言葉に馴染みのない方や、イメージが付きにくい方もいるため、多くの区民に理解いただけるよう、丁寧な周知活動と、参加しやすい仕掛けやイベント・講座を展開していく予定です。</p> <p>中間支援組織として、コーディネーション機能は大切な役割であることから、本ビジョンではプラットフォームという「しくみ」を用いることにより、多くの個人・団体・法人等と連携し、新たな活動や機会の創出、マッチングを含めた連携・協働を生み出していきます。</p>	<p>➡</p> <p>ビジョン P10  &lt;表5：手法と事業展開&gt;  「アシステム・ルールの導入」④に  追記案をもとに意見聴収</p>
4	2(2)方策 2:活動拠点の充実	<p>ビジョンの中に「外国につながる子どもの支援(以下、子ども支援)」を取り上げてほしい。子ども支援には区をあげての取組が必要であり、その取組への参画をビジョンの中に明確に位置付けてほしい。</p> <p>ボランティア活動推進協議会の委員名簿と専門部会委員名簿には、外国人も日本語教育専門家も教育委員会も ICIEF も子ども支援を行っている団体も含まれていない。</p>	<p>外国につながる子ども支援については、本ビジョンでも記載している SDG s の「誰一人取り残さない」という視点においても重要です。</p> <p>本ビジョン P11 で示している地域と学校との連携・協働による支援が大切であることから、関係部署や関係主体と連携し、多角的に検討します。</p> <p>また、教育の視点や多文化共生の視点を取り入れるために、小・中学校の校長や ICIEF に所属する方に委嘱しています。(P21 の資料編 1-5「ボランティア活動推進協議会委員名簿」参照)</p>	

	項目	意見概要	区の方考え方	確認点等
<b>第3章 今後の方向性</b>				
5	2(2)方策 2:活動拠点の充実	ボラセンの教室予約の時間帯を再編して教室の有効活用に取り組んでほしい。現在の教室予約の時間帯は3種類だが、午前と午後との間の1時間と午後と夜間の間の1時間を改訂して、午後と夜間に2時間の2コマができるように再編することにより、限られた教室を有効に活用することにつながり。夜間が2コマ可能になれば、支援が受けられる中学生の数を増やすことが可能になる。 教室をシェアできるような仕組みを作れば、さらに増やすことが可能になる。	本ビジョンは、ボラセンの運営における方向性を示したもので、具体的な施設予約の時間等のご意見については、今後の運営の参考にいたします。	
6	2(2)方策 2:活動拠点の充実	夏休みの教室を確保して、小学校および中学校との連携に取り組んでほしい。子どもに必要なのは日本語支援だけではなく、算数や数学等の積み重ねが重要な教科の学習支援が重用である。ボラセンが教室のコマ数を確保して、学校と学習ボランティアを結び付ける役割を担えば、夏休みに補講をおこなう仕組みが可能になる。	子どもの学習支援は、重要な課題であると認識していますが、ボラセンが教室のコマ数を確保して夏休みの補講を行う仕組みについては、教育の関係部署や関係主体との協議が必要なため、直ちに実現することは困難な状況であることから、運営上の検討課題にいたします。	
7	2(2)方策 2:活動拠点の充実	「コンシェルジュ(仮称)」制度が必要。現在の団体の登録の方法は、団体の申請書どおりである。活動団体が増えている状況でさらにボラセンが活動団体を増やそうとしていることは持続可能性に疑問がある。「予約コンシェルジュ」がボラセンを含む団体の活動内容活動状況、活動計画を把握し、ボラセン、センター運営団体、新規登録団体、活動中の団体に、ボランティアセンター(分室ができた場合は分室を含む)の教室を有効活用する観点から、相談に乗ったり、リコメンデーションを出したりすることで、持続可能なボラセンの運営が可能となる。	本ビジョンは、ボラセンの運営における方向性を示したもので、「予約コンシェルジュ(仮称)」制度の導入などの具体的な施策については示していませんが、最新のICTを活用することは今後必要になるとの認識ですので、運営上の検討課題にいたします。	

	項目	意見概要	区の考え方	確認点等
<b>第3章 今後の方向性</b>				
8	2(2)方策 2:活動拠点の充実	施設（教室）を利用する団体の分析を行うことをビジョンに取り込むことを薦める。	本ビジョンは、ボラセンの運営における方向性を示したもので、具体的な団体登録状況の調査・分析に関するご意見は、今後の運営の参考にいたします。	
9	2(2)方策 2:活動拠点の充実	常にオープンなスペースがあれば、急な集まりも実施でき、また日中は役員が常駐することができれば高齢者の孤立や子どもたちの学習支援などの課題への対応にも道が開けていくと考える。 また、学校の施設を借りることは様々な制約があり困難を伴っている。 ボラセンの活動拠点が地域に整備されれば、情報の共有もしやすくなり、さらに施設の一部を町会が利用・運営協力するなどの柔軟な措置がされれば、さらに相互に活動が進展すると考える。 課題解決に向けての活動は、活動の場があってこそ成り立つため、「人と人とのリアルに出会い、つながれる場」が早急に求められる。 そのためには「区」が自治体としてその役割を十分に果たすことが重要であり、今回策定される「ビジョン」が絵に描いた餅にならないよう、区が力を発揮するよう期待する。	ボラセンが様々な主体と連携・協働することが今後の活動の活性化には必要不可欠ですので、ご意見を参考に、多様な協力体制を各地域で築けるよう、地域の実情を鑑みながらビジョンに基づく環境の整備を検討していきます。	
10	2(3)方策 3:多様な周知媒体の活用	2030年を捉えたビジョンを目指すのであれば、「多文化共生」を視野に入れる必要がある。これには、公益財団法人板橋区文化・国際交流財団との協働活動が必要になると考える。現在のボラセンからの、ホームページなどを活用した発信はすべて日本語で行われており、難しい日本語の場合も多い。	ご指摘のとおり、多文化共生は区にとっても重要な視点であり、多言語化を視野に入れた情報発信も必要と考えます。 やさしい日本語を使うことで、ご覧いただく方々が容易に情報を得て、ボランティア活動へ参加するきっかけになると考えています。	➡ ビジョン P13 2段落 目の追記案 をもとに意見聴取

	項目	意見概要	区の考え方	確認点等
<b>資料編</b>				
11	1-2 いたばし総合ボランティアセンターのあゆみ	<b>P18「1-2 いたばし総合ボランティアセンターのあゆみ」で事務局運営の説明があるが、運営者が変わり何が良くなり何がうまくいかず、それにどう対処したのか、わかりやすく説明すべき。</b>	ボラセンの事務局運営については、受託いただいた各法人の強みを生かし、区内のボランティア・市民活動の発展・活性化に尽力いただいております。  また、ボラセン事務局の受託法人が変更となっても、平成18年度から現在に至るまで、適宜、役員会・運営委員会等の場を活用し、合議による検討を行いながらボラセンの運営がなされています。	
12	1-5 ボランティア活動推進協議会委員名簿・専門部会委員名簿	<b>協議会委員と運営委員会役員会の選任過程をもっとはっきりとしてほしい。</b>	役員会については、学識経験者及びボラセンの運営に携わる法人・団体等からの選任をしております。  運営委員会については、さらに公募による委員の選任もしております。  協議会については、上記選定方法に加えて、ボランティアに関わる各主管課の推薦を受けた委員の選任もいたしました。  今後も、分野に偏りが無いよう幅広く委員を選任していきます。	
<b>【回答対象外意見等】</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボラセンの主催事業（多文化共生に関する情報交換会）に対するご意見・ご感想（1件）</li> <li>・「いたばしボランティア基金」の周知に関するご意見（3件）</li> <li>・「いたばしボランティア基金」の寄付金控除制度に関するご意見（2件）</li> <li>・「いたばしボランティア基金」の名称に関するご意見（4件）</li> </ul>				

#### 4 第7回ボランティア活動推進協議会 専門部会

第7専門部会の委員意見を受けた最終案への反映点は以下のとおりである。

	委員意見概要	最終案への反映内容	確認点等
1	<b>P7「運営方針」下の説明文章に、運営委員会についての記載はあるが、役員会についての記載がないので明記した方がよい。</b>	<p>P7「運営方針」冒頭の文章の変更 ボラセンの運営上の方向性を定める会議体（運営委員会）及び、ボラセンの意思決定を行う会議体（役員会）を設置する。</p> <p>P8「協働する主体」に注釈追加 注6 協働する各主体：運営主体の代表者・有識者等（役員会）や、公募等により募った委員（運営委員会）</p>	